

(様式1)

令和3年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立輪島高等学校 定時制

校長 上野 創

1 教育目標（目指す生徒像）

グローバルな視野を持ち地域に貢献できる自立した社会人の育成

《 校 訓 》

- ① 誠実 : あたたかい心のふれあいを大切にする
- ② 覇気 : 何事にも意気込みを持って積極的に取り組む
- ③ 努力 : 目的達成のために常に力を尽くして励む

2 中・長期的目標（経営方針）

(1) 学校の現状

- ①本校は「働きながら学ぶ生徒」も含めた、「多様な生徒が学ぶ学校」であり、適切な教育支援を行うために生徒の家庭環境や生育歴を把握し、生徒が自ら人生を歩む力を育成するために組織的な生徒指導・教育相談・学習指導・進路指導の充実が求められている。
- ②地域に生まれ育ちながら地元の伝統文化や自然の素晴らしさに気づかないまま青年期を迎えた生徒が多いため、里山里海保全活動などの「ふるさと学習」を通して、豊かな心と逞しく生きる力の育成が求められている。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ①生徒の実態に即したわかりやすい授業を展開し、基礎・基本の習得を図り、学習意欲を高める。
- ②社会人としてふさわしい挨拶や言葉遣いができるなど、他者と円滑にコミュニケーションを行うことのできる力を育成する。
- ③ふるさとを愛し、地域の文化や伝統を尊重する態度を育み、将来、地域に貢献しようとする意識を高める。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ①校長の学校経営方針のもと、定量的分析に基づいた目標管理型の学校経営を推進し、組織的な教育力を高める。
- ②学校経営参画意識を持って課題に対して速やかに対応し、生徒から信頼される「人間力」を高める。
- ③校外・校内研修等により学習指導・生徒指導・進路指導における専門性を高め、学校全体の教育力を高める。

3 今年度の重点目標

(1) 学ぶことのよこびを実感できる学校

- ①ICTの効果的な活用などにより興味・関心を高める授業を工夫することで、意欲的に学習に取り組む姿勢を身につけさせる。
- ②授業での主体的な活動により基礎・基本を習得させ、学びに対する自己肯定感を醸成する。

(2) 社会人基礎力を向上できる学校

- ①社会人として求められる挨拶・言葉遣いの指導により、場に応じた適切な行動ができる生徒を育成する。
- ②自己管理意識を高める指導により、目標に向かい一歩前に踏み出す力を身につけさせる。
- ③いじめを許さない姿勢を示すとともに、他を認め合う心を醸成し、チームで活動する力を身につけさせる。

(3) 地域愛を育む学校

- ①里山里海保全活動への積極的な参加を通して郷土愛を醸成し、地域の振興に寄与できる人財を育成する。
- ②伝統文化や恵まれた自然を教材とした学習により、協働的に活動する姿勢を身につけさせる。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
1 学ぶこと のよこ こびの実感	(1)ICTを利活用し た授業の展開	学力向上G (教 務)	学業に集中して取り組む態 度の定着が不十分で、意欲的 に学習活動に向き合うこと のできない生徒が多い。	【努力指標】 ICTを利活用した授 業を行うことにより、意 欲的に学習に取り組み せる。	ICTの利活用により、意欲的に学 習に取り組めたと感じた生徒が A：80%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C・Dの場合は、次 年度、計画や方策を 再考する。	生徒アン ケート
	(2)生徒の興味関心を 高める授業の展開		学習内容に興味関心を持つ ことができず、授業に主体的 に取り組むことのできない 生徒が多い。	【成果指標】 興味関心を高めるよう な授業改善により、生徒 が主体的に授業に取り 組む。	授業に主体的に取り組んだ生徒が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C・Dの場合は、次 年度、計画や方策を 再考する。	生徒アン ケート
2 社会人基 礎力の向 上	(1)社会人として求め られる挨拶・言葉遣 い指導	キャリア教育G (進路指導) (生徒指導)	基本的な挨拶や場に応じた 適切な言葉遣いを苦手とす る生徒もいる。	【努力指標】 儀式や学校行事の形態 を緊張感のあるものに し、望ましい挨拶や言葉 遣いができるよう指導 する。	人前で挨拶や発表する場面を経験で きた生徒が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	C・Dの場合は、次 年度、計画や方策を 再考する。	儀式・行 事の観察
	(2)時間の自己管理意 識を高める指導		就業の影響による授業の欠 席・遅刻も見られるが、日常 的に授業の欠席・遅刻が目立 つ生徒も多い。	【成果指標】 基本的な生活習慣の大 切さを意識することが でき、授業の出席率が向 上する。	全授業の出席率80%以上の生徒が A：70%以上 B：50%以上 C：30%以上 D：30%未満	C・Dの場合は、次 年度、一層の教員の 意識の向上を図る。	生徒の出 席状況
	(3)いじめを許さない 姿勢の確立		それぞれに事情を抱えた生 徒が多いため、ねたみや嫉妬 などいじめにつながりやす い感情を減らすような取組 が求められる。	【努力指標】 いじめ予防の観点から 生徒が自己有用感を高 められるような行事を 多く取り入れる。	自己有用感が高まったと感じた生徒 が半数をこえた行事が A：年10回以上 B：年8回以上 C：年6回以上 D：年5回以下	C・Dの場合は、次 年度、計画や方策を 再考する。	行事の実 施状況・ 生徒アン ケート
3 地域愛の 育成	(1)ふるさと学習へ の積極的な参加	地域理解G (生 徒 会)	ふるさとに対して愛着を持 つ生徒は多いが、ふるさとに 関する体験学習への参加姿 勢に消極的な生徒もいる。	【成果指標】 生徒一人一人が、ふるさ とに関する体験学習に 積極的に取り組む。	ふるさとに関する体験学習に積極的 に取り組むことができた生徒が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	C・Dの場合は、次 年度、計画や方策を 再考する。	生徒アン ケート
	(2)協働的に活動する 場面の設定		コロナ過で、生徒が協働的に 活動する機会がなく、十分な ふるさと学習を行えていな い。	【成果指標】 感染症対策を十分に行 い、生徒が協働の喜び を得られる活動を設定 する。	生徒が協働的に行った探究活動が A：年10回以上 B：年8回 C：年6回 D：年5回以下	C・Dの場合は、次 年度、計画や方策を 再考する。	活動の実 施状況・ 生徒アン ケート